

平成27年度第6回岡山県地方独立行政法人評価委員会の議事録

- 1 日 時 平成27年7月23日（木）13:00～14:30
 2 場 所 公立学校共済組合岡山宿泊所ピュアリティまきび2階 千鳥
 3 出席委員 末長委員長、小田委員、江原専門委員、田淵専門委員
 4 議 事

- (1) 平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果について
 質疑の冒頭に事務局から評価結果（案）について説明が行われ、続いて委員からの質疑が行われた。以下はその概要である。

委員発言要旨	地方独立行政法人及び事務局発言要旨
<p>自然災害に対する訓練をしているというのは大変なことだと思います。 警察や消防、自衛隊は訓練をしますけど、病院ですというのは、とても大切なことで、訓練したというのはすばらしいことだと思います。</p> <p>P18の2番の患者の自立と社会参加の中でも、就労移行について2点お尋ねさせていただきたいと思います。 おそらく就労移行は、岡山県下のデイケアの中でも、ダントツの実績でいらっしゃるということで、デイケアを囲い込みではなく、常にステップアップしていくという取組が、先進的だなと感じしております。 実施状況の中で、アルバイト・一般というのが、33人ですね。これは、事業主のほうに実際に病名をカミングアウトしているケースがどれぐらいあるのかということですね。個人的な思いなんですけど、私自身は病名をきっちりとカミングアウトして、治療していることを理解していただいた上で、就職をして定着する方が、継続できると思っています。 それから、実際これだけの、76人というおそらく県下のトップクラスの就職をさせる、就労移行支援事業でも、これだけの実績を出してい</p>	<p>○岡山県精神科医療センター 岡山県は被災の支援の訓練はしていますが、実際に被災が発生したときに、DMATとか災害支援本部などとどのように組んでいくのか、国の課題があります。</p> <p>○岡山県精神科医療センター 災害時は、中枢は東京ですけど、東京直下型地震が起こったときは、岡山県の当院です。岡山も南海トラフ地震が起こったら、そのときは北海道の砂川が、というように3段階ですぐに対応できるようにしています。 そうなったら、そのときの状況状況で災害のあり方すべて違いますから、そのときに判断しないといけないと思っております。今DPATの事務局を正式にちゃんと作りましようと言うことを国で決めてもらうところまでは話が進んでいます。</p> <p>○岡山県精神科医療センター 一度、県内の精神科の病院でも協議した方がいいかもしれないのですが、東日本の震災があった時に、精神科の病院が被災していても、そこに病院があるということを災害対策本部は感じなかったので支援が遅れました。 ここを統一していくことが大きな課題だと思います。EMISに登録することはできますが、パスワードをもらえるようになったので自分たちの被災状況をそこに埋め込むと、どこから応援が来るといことがわかります。そのスタートを自分たちで皮切りができるような情報共有ということで課題はだいぶ明確になってきたかなと思います。</p> <p>○岡山県精神科医療センター 若干まだ時間はかかります。</p>

るところはなかなかないと思うんですけども、就職の一番課題というのは、特に当事者にとって、いかに定着できるかということだと、日頃痛感しているんですが、デイケアスタッフが限られた中で就職までつなげる支援や、当事者の方を定着させる支援をどんな風に行ってらっしゃるのかという2点を教えていただけますか。

これに書かれていることの裏側といいますか、非常に今電子カルテとか、電子化がされてると思うんですけど、バックアップをどのようにしているのか、アクセス管理と言いますかパスワードをちゃんと設定してるか、誰がアクセスしたのかとか、どのような作業をしているかと、そこらの具合をどの程度されているのか。

例えば、バックアップはどのようにされているのでしょうか。

それは、例えば経理の税などの会計システムも、ミラーリングでバックアップすることになっているのでしょうか。

消費税が上がってますけど、経費は削減されてますよね。

消費税の影響がかなり大きかったんで、独立行政法人じゃない、当院なんかはかなりそれ

○岡山県精神科医療センター

まさにここは、今も苦勞しているところなんですが、内訳で言うと、半分が発達障害、半分が統合失調症です。発達障害に関しては、9割方オープンにしています。

当院の就労自立支援をそのまま職域の障害者職業センターでの就労支援にバトンを渡しながら、そこを併せて伴奏するというか、個別相談を継続するという形をとっています。

統合失調症等ですけど、こちらは若年層が多い、やはり発病が、お子さんレベルから20代が多いので、初めての就職や2つめのところもあります。この方々については、本人にゆだねています。自分の病気も体質のポイントとかもわかったけども、やっぱり言いたくない、まずは挑戦したいという形のアルバイトが結構多いです。

もちろん、A型障害枠以外のところは、一般の方は半分もないと思います。

2つめは、定着支援の部分ですけど、後方支援事業所なども、一緒にしていただいています。当院の、就労準備、デイケアの後方支援の後、移行支援事業所に繋いで、そこで2年間伴奏して就労できた場合は、スタッフが、いわゆる受診とは別のところで相談に乗り、定着支援をしております。

1年以上が、どのくらい伸びたかとか、2年以上どれくらいのったかとか、このあたりは今から統計を取って、やっていくというそういう段階です。

多くの機関に助けてもらって、組む形を作っています。

○岡山県精神科医療センター

自立できるまでには結構かかるんですね。その間は当院にバイトで週1回か2回来てもらって、生活費は払ってあげると、そういうふうにして、自立するまで支援するという。今度はそこと組みながら、いろんなことをやっていくということです。

○岡山県精神科医療センター

SEを二人採用してまして、電子カルテについてはクラウドでやっております、バックアップについては、システムを2機種おいて、データを管理しています。アクセスについては、最近は攻撃が多いということで、週に1回SEがどこの国から、どんな攻撃を受けているか確認をし、管理を徹底しています。

さらにバックアップを強化することを、まさに今検討しているところです。

○岡山県精神科医療センター

会計の方もかなり高いセキュリティにしています。

が影響して、マイナスになっているのですが、それでも経費が少なく納まったというのは、もっと大きく言ってもいいんじゃないかと。

22ページの1.6%の削減。平成25年度の21.9から20.3に。

これは、ジェネリックが増えたのがあるでしょうけど、そういう努力によってできたというのは、もっと書いてもいいんじゃないかというの思います。

26年度に対する評価は、適正にされているということでしょうか。

どうもありがとうございました。

経営努力をしていると、剰余金を繰り越すにあたって、経営努力をしているのか、経営努力じゃなくて、たまたま予算が単に余ったのか。どっちなのかで、予算が単に余ったのなら返す必要があるし、経営努力でなら、それを繰り越していいよという、地方独立行政法人の基準があります。そうした場合、その業績とか、企業努力について、不満を言う訳じゃないんですけども、ただですね、経営努力、効率的な経営をやった結果、余剰が出たんで繰り越せるというようなところを、もう少し、何か文章なりにしたら、いいのではないのかと思います。

他県の状況とかを見ますと、全部が全部やっているわけじゃないですけど、そのような県の状況もホームページなどで見受けられるのでですね、どうですかね、という提案なんですけど。

本当は財務諸表を見ていって 評価を読んでいけば分かるわけだけど、財務諸表を見ていって最後のそれだけ見てもわかるような書き方ということですね。

文書化した方がいいのではないのかということです。

○岡山県精神科医療センター

現在、全国の地方独立行政法人の病院の積立金の状況を見ますと、いろいろありますが、だいたい独法化して長くて10年ぐらいなので、これから積立金についてはいろいろ検討されると思います。ただ、ひとつ言えるのは、予算残があったらそれは、県に返すべきという話もあるでしょう。

積立金についても返納する義務があるんじゃないかという議論があると思いますが、独法化する前も同じように税金が入っています。

8年たったときに、どうやって12億積み立てたのかと言いますと、一番大きいのは独法のシステムで一番いいのは、積み立て方式が、長期的な戦略で運営できるということです。目標を持ってみんな運営をやっているわけで、そういう意味では、8年間で、こうやって積み立てをしたというのは、一部の公営企業の法適用の病院であれば絶対これは不可能です。積み立てという考え方はないんですよ。そういう意味では、独法のシステムの中で、長期的戦略的に病院経営できるなかで、積立金方式と言うのは、一番私はメリットだと思います。やっぱり、職員が自分で戦略的にやれるというのが一番大きなメリットではないかなと思います。

ただそういう意味では、たしかに7億ほどの税金が入って余ったらじゃあ、設立団体に返すという意見もあると思うんですけども、そのベースそのものがですね、公営企業法のときと比べると、まさに一緒の税金が入っているんです。その中からいろんな戦略なんかで経営努力して経営をやっているのはひとつ評価してもいいなと思うんですけども。

○岡山県精神科医療センター

余剰が出た場合に全部返すというような議論ではなくて、ある意味堂々と繰り越すために、要するに経営努力をした結果、余剰が出たと言ふような説明を、もう少し文書化した方がいいんじゃないかなと、いうことなんですね。

たしかにそうなんですけども、それは、年度の積み上げでもあるんですよ。

繰り越す額は、年度が終わったときに繰り越すんですけど、その繰越金というのは年度年度積み上がったものなので、そういう意味では、年度ごとに議論していく必要があるんじゃないかと言う気はしてるんです。

それと評価の結果は公表されるわけで、公表されたのを見る立場によって、それはいいことであるか見るか、見る人によって変わるわけで、見方はいろいろあるわけで、あまり意図的なことを書くと、必ずしもそれはいいことだけではないかもしれないですね。

要するに、積立金が経営努力によって効率的な運営の結果、積み上がったものか、あるいは単なる予算が多かったせいで余ったのかによって、それが取り込んでいいものか、県に返すものか、ここでの意見によって、県知事が評価してどうするかを決めると言うことになっているわけですよ。そういう意味で、我々の意見によって転ぶわけですから、もう少しそのところをきちんと明確にしたほうがいいかと、言う意味で提案しました。

状況からすると、事務局がどういう風にかけるのが望ましいと思うかということになってきまつかね。

実際には平成21年から、繰り入れていただく原資の10%を最初から県にお返ししています。

つまり、あらかじめ返しています。その中でやりくりすると言う形を取っています。そうしないと、結果として1億円利益が出たと、1億円県に返しますとなりますと、職員は働かないです。それから、やはり1億の余剰金が出たのであれば、ボーナスには反映させるし、あるいは次のステップ、新しいことをやるためにちょっと使いますよと。これは、患者さんのため、県民のためにもなるし、職員にとってもいいことです。そういうことがないと、労働意欲をかき立てるといふことが、一番難しいことなんですよ。

ですから1割ぐらいは最初からさしあげても、やれるという見込みを持って今はやっておるといふ。一番心配しているのは中期目標、年度目標のときなんです。目標を立てるといふのは数値で立てますので、そうすると東芝と同じような事件が起こりはしないかという危惧が若干あります。常にその目標について、つい、がんばれと言ってしまうようになる。そこは気をつけないと、全体のバランスを常に取っていくというのが、やっぱり経営者の責任じゃないかと思ってます。

○岡山県精神科医療センター

それは、健康推進課でしっかり考えていただかないと。

○岡山県精神科医療センター

第2期が終わったとき、第3期の中期計画の中で積立金をどういう風に戦略的に組み立てていくかという議論をさせていただくこととなります。

○岡山県精神科医療センター

その通りだと思います

○事務局

即答しかねる部分ですけども、財務諸表を県で精査しまして、議会の常任委員会にも出て行きますし、そう言った中で審議をされることになるかと思っておりますので、説明責任そのもの

のは事務局にありますので、そういった中で、表示がないから返すべきお金であったのかと言うよりは、ここで書いておかないといけない、そうでないと言う議論をいただいた結果を踏まえてそこは、表示をすべきかしないか考えますけども、あくまでも事務局としましては、説明すべき内容は把握した上で説明しますので、書いていなかったから返すべきものだとはしないと考えています。

○岡山県精神科医療センター

私は全国の地方独立行政法人病院協議会の会長をしているので、一度、運営費負担金について、どのくらいもらってるのか決算金額でいくらになるかというのを、きちんと出して調査をした上で、全国的にどのようになっているか明らかにしないとイケないと思いますね。

○事務局

毎回、議会の常任委員会で、説明させていただいているのですが、そのときには財務諸表自体を全委員に渡す訳ではないのですが、総括的なもので口頭で説明させていただいております。

返しめしよと、言っているのではなくて、堂々と繰り越すために、文書化した方がいいのではないかと。説明は十分にされてるんですけども。

他県の状況でも、やってるところもたしかあったと思うんで、要するに、分析をした上での文書があったらいいのかなと思ったのです。

そういうことなので、評価のところでは、わかりやすいように、財務諸表のところでは、必要なことは書いて、いろいろな立場の人が見ても、理解できるようにということでしょうか。

ということで、財務諸表については適当と認められるとすることで、よろしいでしょうか。

〔（異議なし）との声あり〕

(2) その他 今後の日程について確認。挨拶等